# 第 5 講　日本のすがたと産業

## Step 1

1 次の問いに答えなさい。

(1) 日本の総面積は，約何万平方キロか。

(2) 日本最西端は，何県の何という島か。

(3) 韓国が領有権を主張し，占拠している島根県の島を何というか。

(4) 日本で最も面積の小さい都道府県とはどこか。

(5) 日本で２番目に人口の少ない都道府県とはどこか。

(6) 日本を北海道地方や東北地方などと区分したとき，合計でいくつに分かれるか。

(7) 日本の食料自給率は，(カロリーベースで計算すると）約何割か。

(8) 2018 年に廃止された，米の生産調整のことを漢字４字で何というか。

(9) 次の文章中の空所に入る数字を埋めよ。

「温帯中心で降水量の多い日本は，山地を中心に国土の約３分の（　　　）を森林が占めている。」

(10) 自然との関係で原料を得る農業・林業・水産業などの第一次産業に対し，原材料を加工して製品を生産する鉱業や工業を何というか。

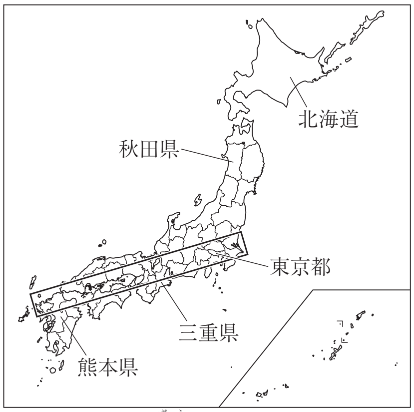
(11) 商業を大きく２つに分けると，卸売業ともう１つ何業に分かれるか。

(12) 少子高齢社会が進行すると，介護やサービスを行う医療・福祉業が成長するが，これは第何次産業として分類されるか。

## Step 2

**2** 右の略地図を見て，次の各問いに答えなさい。

〈略地図〉




（「日本国勢図会（ずえ）　2014／15」ほかから作成）

(1) 略地図に▭で示したあたりにのびる，帯状の，臨海型の工業地域を何というか，その名称（めいしょう）を書きなさい。

(2) 略地図に示した熊本（くまもと）県にある，カルデラをもった火山の名称はどれか，次のア～エから最も適当なものを１つ選び，その記号を書きなさい。

ア．阿蘇山（あそさん）　イ．雲仙岳（うんぜんだけ）
ウ．桜島（さくらじま）　エ．霧島山（きりしまやま）

(3) 略地図に示した北海道（ほっかいどう）の東部では，酪農（らくのう）がさかんである。酪農について述べた文はどれか，次のア～エから最も適当なものを１つ選び，その記号を書きなさい。

ア．温暖な気候を利用して，ビニールハウスでピーマンなどを栽培（さいばい）する農業。
イ．森林や草原を焼（や）き払（はら）い，その灰を肥料として活用する農業。
ウ．乳牛などを飼育し，牛乳やバター，チーズなどの乳製品を生産する農業。
エ．夏に乾燥（かんそう）し，冬に雨が多い地域で，オリーブや小麦などを栽培する農業。

(4) 次の資料１は，略地図に示した三重県にも見られる，平地が少ないところにつくられた水田を示した写真である。また，次の資料２は，資料１で示したような，平地が少ないところにつくられた水田についてまとめたものの一部である。資料２の［　X　］にあてはまる最も適当な言葉は何か，書きなさい。

〈資料１〉

〈資料２〉

> 山の斜面（しゃめん）などにつくられた階段状の水田は［　X　］と呼ばれ，美しい景観の保存や環境（かんきょう）の保全にも役立っている。国は，「日本の［　X　］百選（ひゃくせん）」として，地域が積極的に守ろうとしているすぐれた［　X　］を選び活性化をはかっている。

【三重県】

## Step 3

3　太郎さんは，社会科の学習で，「日本の工業の変化と特色」について学習することになり，調べたことをノートにまとめました。後の１から４までの各問いに答えなさい。

ノート

日本の工業の変化と特色

めあて　日本の工業の変化と特色について，調べたことをもとにまとめる

学習の方法　・資料や調べたことをもとに考える　・国際関係のなかで考える

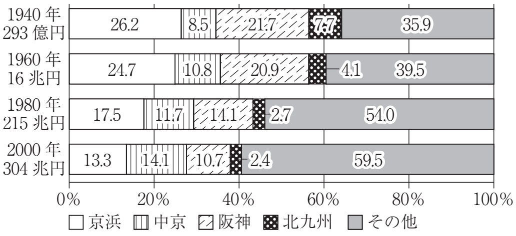
調べたこと

日本の工業の始まり：繊維などの軽工業
⇩
鉄鋼・造船などの重工業や重化学工業

早くから工業が発達した工業地帯：京浜，中京，阪神，北九州など

第二次世界大戦後　これらの工業地帯の周辺に工業地域が拡大
石油化学工業や金属工業の工場が臨海部に立地
⇩
太平洋ベルトを形成
⇩
輸送機械と電気機械などの機械工業が発展
⇩
※1970 年代以降　交通の便がよい内陸にも拡大
⇩ ⇨ 工業団地の開発
1980 年代以降　日本企業の海外への進出
⇩ ⇨ 産業の空洞化の進行
日本国内では，先端技術を応用した製品を生産

資料１　日本のおもな工業地帯・工業地域別製造品出荷額の割合




［「数字でみる日本の 100 年」より作成］

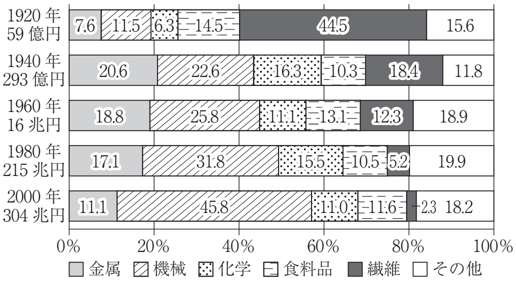
クラスで話し合うテーマ

・多くの日本企業が海外に生産工場を移すようになった理由

まとめ

振り返り

資料２　日本の製造品出荷額の構成




［「日本国勢図会 2015/16」「数字でみる日本の 100 年」より作成］

１　日本の工業は，かつて原料の多くを輸入し，工業製品を輸出することを中心に展開されてきた。このような貿易のことを何というか。書きなさい。

２　下線部※にあるように，1970 年代以降，日本の工業地域は内陸部へ広がっていった。その要因について，ノートを参考にして書きなさい。

3　日本の工業の変化について，正しく説明しているものを，ノート，資料１，２を参考にして，次のアからエまでの中から１つ選びなさい。

ア　日本の工業は，繊維などの軽工業から始まった。1960 年と 1980 年を比較すると，繊維の製造品出荷額とその割合は，ともに減少していることがわかる。

イ　早くから工業が発達した工業地帯は，現在も日本の工業の中心的存在である。2000 年の製造品出荷額の割合は，京浜・中京・阪神・北九州をあわせると５割を超えている。

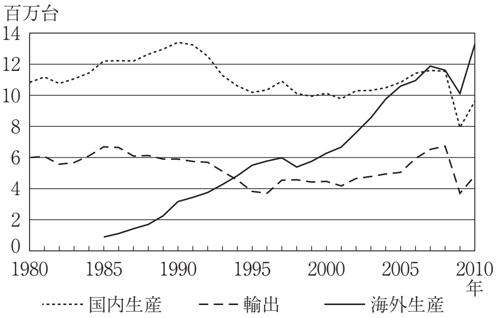
ウ　重化学工業の製造品出荷額の割合について，1980 年と 2000 年を比較すると，機械の割合だけが増加し，2000 年は４割を超えている。

エ　1960 年の阪神工業地帯は，日本の製造品出荷額の割合のおおよそ５分の１を占めていた。しかし，2000 年の製造品出荷額の割合は減少し，５％に満たなくなった。

4　太郎さんは社会科の授業で資料３，４を見ながら，日本の企業が海外に生産工場を移すようになった理由についてグループで話し合った。資料５はその時に出されたおもな意見である。

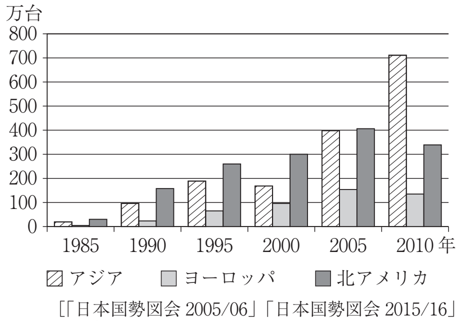
太郎さんはノートの まとめ に日本の企業がアジアや北アメリカに生産工場を移した背景について書くことにした。資料３から資料５までを参考にして，アジアの場合と北アメリカの場合について，それぞれ書きなさい。

資料３　日本の自動車の生産台数と輸出台数の推移




[「数字でみる日本の 100 年」より作成]

資料４　国内自動車会社の海外生産台数




[「日本国勢図会 2005/06」「日本国勢図会 2015/16」より作成]

資料５　話し合いで出されたおもな意見

- 1980 年代後半，円高が進行したころから自動車の輸出が減少した。
- 海外で生産される自動車の台数が，国内で生産される台数を上回るようになった。
- 日本とアメリカ合衆国の貿易で，貿易赤字の大きかったアメリカ合衆国から批判があったことと，日本企業のアメリカ合衆国への進出は関係している。
- 安い賃金の労働力を求めて海外へ進出した。
- 新しい市場としての期待が高まった。
- 2000 年以降，アジアでの自動車の生産台数が急増している。

【滋賀県】

# 第 5 講　日本のすがたと産業

## Step　1

1　(1) 38 万（平方キロ）　(2) 沖縄県与那国島　(3) 竹島　(4) 香川県　(5) 島根県　(6) 7 つ　(7) 4 割　(8) 減反政策　(9) 2　(10) 第二次産業　(11) 小売業　(12) 第三次産業

## Step　2

2　(1) 太平洋ベルト　(2) ア　(3) ウ　(4) 棚田

## Step　3

3　1. 加工貿易　2. 交通網が整備されたことにより，内陸部に機械工業などの工業団地がつくられるようになった。（同意可）　3. ウ　4. （アジア）円高や，賃金の安い労働力や新しい市場を必要とする状況があった。（北アメリカ）円高や貿易上の対立があった。（それぞれ同意可）

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。